

今号のピックアップ

- 1ページ 第29回大阪市立小中学校事務研究大会について
- 2～3ページ 研修会報告・令和5年度総会報告
- 4ページ 令和5年度役員・事務局専門部員・監査委員名簿
- 5ページ 令和5年度幹事会名簿
- 6ページ 幹事会報告、会長コラム、関係団体日程等



第29回大阪市立小中学校事務研究大会開催

日程：令和5年9月22日（金） 場所：大阪市教育センター 講堂

今年もはや半年が過ぎ、一学期も残すところあとわずかとなりました。学期末に向けて、また二学期の準備で慌ただしい日々をお過ごしの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

さて、市事研では、新しい時代に即した学校事務職員の果たすべき役割と学校事務のあり方を探究し、より高度で信頼ある確かな学校事務の実現と学校教育の充実に向け、今年度の研究テーマを「組織として考える学校教育と学校事務」とし、活動の重点を「次代の学校事務の確立に向けた研究」「信頼に応える確かな学校事務の実践」「組織力の向上」として、研究を進めているところです。

そのなかで、第29回大阪市立小中学校事務研究大会実行委員会では、これまで学校事務職員が積み重ねてきたものを未来へつなげていきたいという思い、そして今私たちができることについて会員の皆様とともに考えていく機会となるよう、大会のサブテーマを「～“KYOU DOU” 次代につなぐバトン いま私たちにできること～」とし、多くの方にご参加いただけるよう、実行委員一同、大会当日に向けて準備を進めています。

研究部では、昨年度の研究発表において、校内組織を通じた学校経営への参画と共同学校事務室を活用した学校経営への参画等について提案を行いました。今年度は、引き続き共同学校事務室の活用を含め、より学校事務職員が学校経営に参画できるよう、学校事務職員の専門性の一つである「財務」に重点をおいて進めた実践などを基に研究発表を行う予定です。記念講演では、文部科学省 国立教育政策研究所 初等中等教育研究部長(併)教育政策・評価研究部長(命)教育データサイエンスセンター副センター長 藤原 文雄様をお招きし、ご講演いただく予定です。

時程や大会の詳細につきましては、決まり次第、改めてお知らせいたします。

第29回 研究大会実行委員名簿		
役職	名前	所属
実行委員長		
副実行委員長		
実行委員		
実行委員		
実行委員		
実行委員		
実行委員		
実行委員		

研修会「教育ICT及びDXの推進と学校事務とのつながり」

大阪市教育委員会事務局 学校運営支援センター 教育ICT担当課長 田中 正史 様

令和5年5月26日(金)大阪市立港区民センターにおいて研修会を開催しました。大阪市教育委員会事務局 学校運営支援センター 教育ICT担当課長 田中 正史 様を講師に迎え、「教育ICT及びDXの推進と学校事務とのつながり」と題し、ご講演いただきました。

はじめに、現在私たちを取り巻くデジタル化の動きや背景、ICTやDXとは実際何なのか、身近な業務のなかで感じること、Reskilling(業務上で必要とされる新しい知識やスキルを学ぶこと)、これらについて気を留めながら、今回の講演を聞いていただき、最後の振り返りにつなげていただければとお話しされました。

◎コンピューターとインターネットの歴史について

ご自身の経歴を交えながらご説明いただきました。1946年、世界初のコンピューターが開発されてから約70年、急速にコンピューターとインターネットが発展する時代に入っており、2045年にはAIと人間が置き換えられる時代がやってくると言われているが、チャットGPTの誕生でその時代はより一層早まり、もうすぐそこまで迫っているのではないかと述べられました。



◎学校園のシステムやネットワークの現状について

平成21年度に校園ネットワーク業務システムが稼働し、令和3年度末からは教育情報ネットワークが稼働した。学校園のシステムは教職員、児童生徒あわせて約20万人が使用しており、これは一つの都市に相当する規模であり、これらのシステム運用を学校運営支援センターのシステム担当が担っているが、システムの安定化には大変な労力が必要であると述べられました。

◎ICT及びDXについて

これまで日本では一般的に「IT(情報技術)」が普及していたが、現在では「IT」に「C(コミュニケーション=通信)」が加わり、国際的にも「ICT(情報通信技術)」が用いられていること、「DX(デジタルトランスフォーメーション)」は「新たな価値を創造することを目的に、デジタル技術の駆使によって既存の枠組みを変化させること」であり、単なるデジタル化ではなく、人々の生活や価値観をデジタル技術を用いて変革することであるとご説明いただきました。DXには、①電子化(デジタイゼーション):アナログ業務をデジタル化する、②最適化(デジタイゼーション):デジタル化の範囲を全域的に広げる、③新たな価値(デジタルトランスフォーメーション):変革・イノベーションを全体で巻き起こし社会変容をもたらすといった3段階があり、大阪は現在第2段階の手前に位置している。第3段階の「DX」に到達するためには何をしていくべきなのかを考える必要があると述べられました。

令和5年4月には「大阪市DX戦略」が策定され、このなかでは大阪市教育委員会を含めた本市全体で、一人一人の考え方も含めて変革していくとされている。また、教育DXでは、学校がデジタル技術を活用してカリキュラムや学習のあり方を革新するとともに、教職員の業務や組織、プロセス(仕事のあり方)、学校文化を革新し、時代に対応した教育を確立することとされており、児童生徒の学びと内部組織をあわせて改革するという二つの意味合いが含まれていると述べられました。

◎「GIGAスクール構想の下での校務DX」について

現在、校務系と学習系のネットワークは分離しているが、将来的にはゼロトラストの考え方にに基づき今後両者が結合され、より使いやすい環境になること、また、いつでもどこでも仕事ができるロケーションフリーな環境を整備することでより働きやすい環境になることが予想されると述べられました。

また、次世代の校務DXに向けたロードマップが文科省より公開されており、次世代システム導入時期である令和7年度に向けて、学校現場の意見をくみ取る計画を検討中であると述べられました。

◎自治体DX推進計画について

令和2年12月に閣議決定された「デジタル・ガバメント実行計画」により、地方公共団体におけるデジタル・ガバメントが推進されるなか、大阪市教育委員会においても、就学事務（学齢簿）と就学援助事務を対象に文科省が定める標準仕様に沿った業務、機能の標準化の対応が必須とされており、就学援助についてはオンライン申請もできる仕組みに変わることが想定されていると説明されました。自治体システム標準化は日本全体の大きな動きであり、市民生活が大きく変わっていく時代に入るが、私たちが関わっている仕事は市民のための公共の仕事であるという意識を持ち、大阪市全体で取り組んでいく必要があると述べられました。



◎「新たな自治体行政の基本的な考え方」について

2025年には国民の約3割が高齢者となり、さらに団塊世代が75歳以上の後期高齢者になることで起こる「2025年問題」が控えていること、また、2040年頃には65歳以上の高齢者人口がピークを迎え、労働力の絶対量が不足することが明らかになっていることから、将来の自治体行政の運営が危ぶまれていると述べられました。これらの背景から、国はデジタル改革に向けた取組を加速させる必要があると提言し、地方公共団体は、住民サービスの持続的かつ安定的な提供と都市力の向上に向け、既存の制度・業務を大胆に再構築し、デジタル技術を最大限に活用した変革を進める仕組みづくりに今から着手していく必要があるとご説明いただきました。

◎「今後のDXの動きと学校事務とのつながり」について

ICT及びDXとは、文房具と同じ便利なツールの一つで、それをどのように使いこなせるかが重要であり、一人一人が意識して積極的にかかわることが大切であると述べられました。最終的には人にしかできない仕事が残し、それが何なのかを考えたとき、「Reskilling・学びなおし」により新しい知識や考え方に触れることで、今までの仕事の進め方が時代に合っているのかを振り返ることができる。新しい考え方や行動を理解し取り入れ、これからの学校現場をつくってほしいと述べられ、研修会を締めくくられました。

研修会アンケートより（一部抜粋）

- ・自身の仕事について、どういう風にデジタル化が進んでいくのか、イメージする時間を取ることができました。 [中学校5年目未満]
- ・近い将来や未来の話聞くことができ勉強になりました。 [小学校5～10年目]
- ・知識だけでなく、今後の組織づくり、人材育成、自分自身の学び直しについても考える機会となりました。 [小学校21年目以上]

令和5年度 総会開催

令和5年5月26日（金）大阪市立港区民センターにて、研修会に引き続き令和5年度総会を開催し、すべての議案について承認されました。

- 第1号議案 令和4年度 事業報告
- 第2号議案 令和4年度 会計決算報告
- 第3号議案 令和4年度 監査報告
- 第4号議案 令和5年度 役員等選出について
- 第5号議案 令和5年度 事業計画（案）
- 第6号議案 令和5年度 会計予算（案）

すべての議案についてご承認いただき、ありがとうございました。

令和5年度 役員・事務局専門部員・監査委員名簿

	名 前	行 政 区	所 属
会 長			
副 会 長			
事 務 局 長			
事 務 局 次 長			
事 務 局 員			
研 究 部 長			
研 究 副 部 長			
研 究 部 員			
研 修 部 長			
研 修 副 部 長			
研 修 部 員			
監 査 委 員			

令和5年度 幹事会名簿

行政区	名 前	所 属
北 区		
都 島 区		
福 島 区		
此 花 区		
中 央 区		
西 区		
港 区		
大 正 区		
天 王 寺 区		
浪 速 区		
西 淀 川 区		
淀 川 区		
東 淀 川 区		
東 成 区		
生 野 区		
旭 区		
城 東 区		
鶴 見 区		
阿 倍 野 区		
住 之 江 区		
住 吉 区		
東 住 吉 区		
平 野 区		
西 成 区		

令和5年度第1回幹事会報告

令和5年6月26日(月)大阪市教育センターにおいて、幹事会を開催しました。

1 今年度の活動について

- (1)事務局 会報第241号発行
- (2)研究部 令和5年度の研究について
- (3)研修部 パソコン研修会について
実務研修会開催予定

2 第29回大阪市立小中学校事務研究大会について

日程:令和5年9月22日(金)
会場:大阪市教育センター 2階講堂

3 業務連絡

- ・備品の棚卸しについて
- ・指導書について
- ・校園に関する案件の契約方針の改定等について
- ・特別支援教育就学奨励費について
- ・アメリカザリガニの飼育等許可の申請について
- ・大阪市暴力団排除条例に基づく誓約書の徴収について
- ・大阪市グリーン配送に係る特記仕様書の改正について
- ・学校図書館の蔵書構成の充実に向けた取組について
- ・諸手当の事後確認について

4 その他

- ・全事研会報246号配付



～ 会長コラム Vol.9 『小さな一日一善』 ～

皆さんは『一日一善』という言葉を知っていますか？漢字のとおり「一日に一つ善い行いをする」ということなのですが、私は『小さな一日一善』を日々の目標にしています。

何か無理をして善い行いをするというのではなく、例えば校舎内に落ちているゴミを拾うような、普段から無意識に行っていることでも構わないので、毎日継続して行うことを大切にしています。家族や友人、職場の同僚、子どもたちや保護者に対して、決して特別ではないですが『小さな一日一善』を続けて、全部合わせて大きな一善になればいいなと思っています。

そんな自分にも一善を。皆さんも自分自身へ『小さな一日一善』から始めてみませんか？



関係団体日程等

第15回 近畿地区公立小中学校事務研究大会(滋賀大会) 8月18日(金)【ハイブリッド開催】
大阪府公立学校事務研究会 第81回研修講座 9月5日(火)【Web開催】



編集後記

4月に異動した学校ではすでに共同学校事務室が始まっていました。初めての共同学校事務室に戸惑う日々ですが、前向きに「Reskilling!」を忘れずに、一日でも早く新しい環境で活躍したいです。(Y)